

名経大図書館で犬山市立図書館との連携事業

レオナルド・ダ・ヴィンチ展「没後500年」

名古屋経済大学図書館では、犬山市立図書館との連携事業として、11月16日から図書館1階エントランスホールで「レオナルド・ダ・ヴィンチ展―没後500年―」を開催している。写真。

同展は、イタリア・ルネサンス期の画家、発明家、科学者で、万能の天才、レオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年を記念して、レオナルドが遺した貴重な手稿を中心として展示するもの。

名古屋経済大図書館の会場では、手稿として、同図書館が所蔵している『解剖手稿』と『素描集』をはじめ、1974年に日本で開催された最初で最後の『モナ・リザ展』カタログやチケットなど関連資料も展示している。

ダ・ヴィンチ展では、来場者は、『モナ・リザ』と『最後の晚餐』の記念撮影用顔はめパネルを使って撮影し、図書館の中に貼られているレオナルドに関するクイズに答えて、天才の多彩な世界を楽しめるように構成されている。

『解剖手稿』と『素描集』は、ともに英国ウィンザー城王室図書館が所蔵するレオナルドの手稿のファクシミリ版。『解剖手稿』は、約30年間の作品で、事実上独力で人体の構造を探究した記録であり、レオナルドが残した図に付されたノートからは、剖出作業に難渋した様子が伺える。『素描集』は、風景や植物、水の素描と考察、さらに、レオナルドが最も親しんだ馬と、牛、犬、猫、竜などの動物を描いたもので、画家、科学者としてのレオナルドの手稿は、多くの来場者の関心を集めている。会期は12月20日（金）まで。

